

# 鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間……平成30年7月～9月  
対象企業数…154社

## DI (Diffusion Index = 景気動向指数) とは

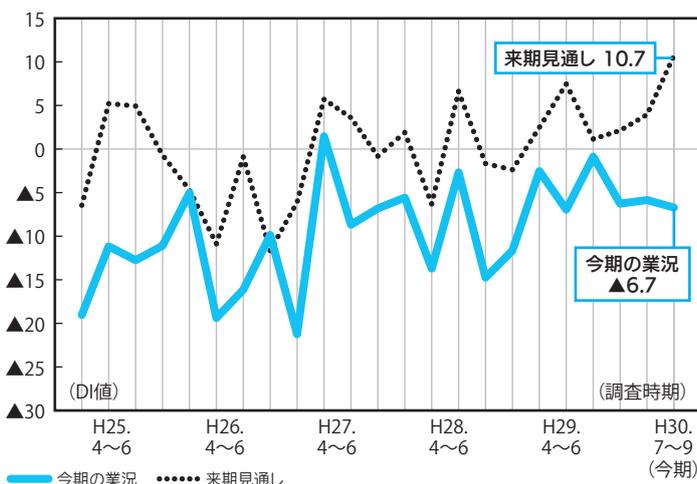
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来の見通し予測を行う。

・DIがプラスなら…好転、上昇基調 ・DIがマイナスなら…悪化、下降基調

### 記号の見方

DI 値	-25P 以下	-25～-10P 未満	-10～10P 未満	10～25P 未満	25P 以上
景況	特に悪化 ⬇	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ⬆

## ■ 業況 DI の推移



## ■ 産業別 DI 値表

		前期	今期	増減	来期見通し	
		[H30.4~6] (A)	[H30.7~9] (B)	(B) - (A)	[H30.10~12]	
業況	全産業平均	▲ 5.8	▲ 6.7	▲ 0.9	10.7	↗
	製造業	0.0	▲ 6.1	▲ 6.1	6.3	→
	建設業	9.4	▲ 3.6	▲ 13.0	15.4	↗
	卸売業	▲ 29.2	▲ 26.1	3.1	▲ 4.2	→
	小売業	6.7	0.0	▲ 6.7	20.0	↗
	サービス業	▲ 18.9	▲ 2.8	16.1	13.2	↗
売上額	全産業平均	▲ 2.6	6.5	9.1	9.9	→
	製造業	9.7	9.4	▲ 0.3	19.4	↗
	建設業	12.5	6.9	▲ 5.6	▲ 6.9	→
	卸売業	▲ 37.5	▲ 16.7	20.8	4.2	→
	小売業	20.0	23.3	3.3	16.7	↗
	サービス業	▲ 21.6	5.3	26.9	13.2	↗
資金繰り	全産業平均	▲ 10.5	▲ 9.8	0.7	1.3	→
	製造業	▲ 12.9	▲ 9.1	3.8	0.0	→
	建設業	3.1	0.0	▲ 3.1	0.0	→
	卸売業	▲ 13.0	▲ 16.7	▲ 3.7	0.0	→
	小売業	▲ 13.3	▲ 20.7	▲ 7.4	10.0	↗
	サービス業	▲ 16.2	▲ 5.3	10.9	▲ 2.7	→
採算	全産業平均	▲ 8.4	▲ 6.0	2.4	▲ 2.0	→
	製造業	▲ 3.2	▲ 3.0	0.2	12.1	↗
	建設業	15.6	▲ 10.7	▲ 26.3	0.0	→
	卸売業	▲ 33.3	▲ 8.7	24.6	▲ 13.0	↘
	小売業	▲ 6.7	▲ 6.7	0.0	3.3	→
	サービス業	▲ 18.9	▲ 2.8	16.1	2.7	→

業況は一進一退も、来期における回復への期待感が高まる

【今期(平成30年7～9月期)の景況】  
全産業の業況DI値は、前期とほぼ変わらず、▲6.7(前期比マイナス0.9)ポイントで、一進一退の状態が続いている。業況を産業別に見ると、建設業のDIがマイナスに転じたが、サービス業はマイナス幅を大きく縮小した。

【来期(10～12月期)の見通し】  
全産業の業況の来期見通しは、10.7(前期比プラス6.8)ポイントとなり、業況回復への期待がうかがえた。

【今期の売上額・資金繰り・採算】  
全産業の売上額DI値は、6.5(前期比プラス9.1)ポイントと増加し、特に、卸売業とサービス業が、大きく好転した。全産業の資金繰りDI値は、▲9.8(前期比プラス0.7)ポイントでほぼ変わらない。

採算DI値は、全産業では▲6.0(前期比プラス2.4)ポイントと、わずかに増加。卸売業はマイナス幅を大きく縮小したが、建設業が大きく低下した。

【回答企業のコメント】  
・小規模工事にも価格競争が生じ、採算がとりづらい状況。(建設)  
・ネット通販ユーザーの取り込みや、商品仕入単価の上昇への対応が急務。県外や国外からの需要の増加の兆しあり。(卸売)  
・更なる売上アップのために、従業員の技術力を上げていきたい。(サービス)